

《新企画：顧問税理士のコラム その5》
2016年（丙申）の動向 ～企業編～
知恵の時代 ～丙申年における企業の生き方～

菊川税務会計事務所
全部協顧問税理士 菊川 慶規

新しい企画として、旧プライムニュース2月号から顧問税理士のコラムを設けています。10月号の「2016年（丙申）の動向 ～海外編～」に続き、陰陽五行論で今年のビジネスを取り巻く環境について論じて頂きます。全6回のシリーズとなります。（注：原稿は1月20日に受け付けていま



菊川顧問税理士

企業は帰るところ人です。どういう人材を採用するかがひとつのポイントですが、景気が良くなってくると、大企業でさえ人材の確保に苦しみます。まして中小企業の場合は、採用予定人数に満たない場合もあります。良い人材を採用するには、まず社内の整理整頓をして社内を明るくする必要があります。そして社員の服装や言動もしっかり見直す必要があります。きちんとした器ができて、はじめて良き人材が集まります。一番大切なのは、今いる社員をどう育てるかですが、その前にもっと大切なのは、社長自身の自己改革です。会社の規模が大きくなってくると、社長一人の『直感』だけでは限界があります。自分の意見だけを押し通すのではなく、社員たちの意見を積極的に取り入れていく事が大切です。社長がまず心掛けなければいけないのが、インタラクティブなコミュニケーションです。これは単なる伝達ではなく、自分の考えを丁寧に伝えて、社長と社員の考えが同じになるようにすることです。その上で社員の素直な意見に耳を傾ける『心の器』を作ることが必要です。ここで利益の3原則について言及します。

第一に『利益は動き』にあり。これからの時代、経済は間違いなく発展します。陰の時代は大きな動きをしない方が安全でした。しかし経済台頭期には、じっとしていたら駄目です。むしろ社長以下一般社員まで積極的に動く事です。陰陽五行論では『運命は動きの中にあり』と云います。

第二に『利益は差』にあり。当たり前ですが、物の売買でも為替でも、そこにおける差が利益となります。経済が大きく伸びるときには、他者との差、他の商品との差を、如何につけるかがポイントになります。会社として、他との間にどういう差をつけるか、それを考え実行する時は今です。今まで以上に『差別化』を意識することです。好景気は個人の夢が実現しやすく、多様性が受け入れられます。強烈な差別化を打ち出していく事は企業が伸びるポイントになっていきます。

第三に『利益は変化』にあり。時代が陰から陽に変わり、また習得期から経済台頭期に変わろうとしている今、過去と同じ事をしていては、マーケットから取り残されていくだけです。大切な事は、今までの常識ややり方を潔く捨てて、時代に即した新たな行動をすべき心を変化させ、また社内のムードも一変させることが大切です。そこで心掛けるべき今年のポイントです。まず一つ目は『不都合を常と思えば不都合なし』の精神です。これは徳川家康の言葉です。人間は100%完全が当たり前と錯覚して、完全でない場合は落ち込みます。しかし世の中完璧なものはない、不都合があっても当たり前だと思えば落ち込みません。その結果、大きな事ができるようになるのです。二つ目は『随所主となれば立所皆心なり』。これは禅の言葉です。どこにおいても自分が中心人物だと思えば責任を持って主体的に生きていくなれば真実を把握できて、何事にも翻弄されずに成功す

るという意味です。三つ目は、この瞬間を大切にす、今を生きる事です。過去を後悔せず、未来を憂えず。今この瞬間に気持ちを集中して全力を尽くす事です。『念ずれば花開く』と有名な言葉を残したのは、詩人の坂村真民です。この念をいう文字は今という字の下に心を書きます。今という時に心を集中する事が念じるという意味です。その気持ちが願いを叶えるのです。

次に丙申年における組織人の心構えです。かつての日本は知識のある人が成功する時代でした。そのために一流校を出た人が出世しました。今は知識の時代ではなく、知恵の時代です。知恵とは恵まれしを知る事。足るを知る事です。つまり現実にある自分に与えられているものに気づき、それを大切にしていると、そこに大発展のきっかけがあるという意味です。成功する組織人は現状に感謝をして、まずは縁があつて与えられた仕事に専念し、それをいかに効率よく発展させるかを考えるべきです。その熱意と工夫を、世の中や環境は必ず見ている、大いなる存在が次の地位を与えられ、あるいはさらに良い会社からの引き抜きも出てくるのです。

つづく